

第 39 回豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和 8 年 5 月 25 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 39 回 豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会

日時	令和 8 年 5 月 25 日（月）午後 2 時 00 分～午後 3 時 15 分
場所	豊橋市教育会館
出席者 敬称略	<p>教育長 原田 憲一</p> <p>教育委員 渡辺 嘉郎 内浦 有美 中島美奈子 西島 豊</p> <p>高等学校等校長 牧野 昌子（時習館） 鈴木 真紀（豊橋南）</p> <p>脇田 広信（豊橋工科） 神本 聡（豊橋聾）</p> <p>鈴木 玲子（豊橋特別支援） 天野 秀典（時習館附属中）</p> <p>守屋 和春（桜丘中） 田嶋 之貴（桜丘）</p> <p>青山 昌俊（藤ノ花） 高倉 嘉男（豊橋中央）</p> <p>小中校長会 河合 厚志（中部中） 吉田 明弘（向山小）</p> <p>稲田 恒久（牟呂中） 河合香奈美（二川小）</p> <p>事務局指定委員 小清水仁美（こども未来部長）</p> <p>石川 和志（教育部長）</p> <p>代理出席 渡辺 大倫（くすのき特別支援教頭）</p> <p>※欠席者：</p> <p>牧野 美和（豊丘） 佐羽尾稔幸（豊橋高） 鳥山 徳子（前芝中）</p>
オブザーバー	<p>小野 勇一（東三河教育事務所指導課長） 長谷 佐織（東三河教育事務所主査）</p> <p>繁田 幹江（新城市教育委員会指導主事） 鵜飼 毅（田原市教育委員会指導主事）</p>
事務局	伊丹 浩之（教育監） 木全 功（教育政策課長） 他 7 名

次 第

- 1 教育長あいさつ
- 2 副会長紹介
- 3 昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について
- 4 東三河小中高特連携教育推進協議会について
- 5 連絡事項（事務局）

議事録

(渡辺会長)

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から、「第39回豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の今年度の会長を務めさせていただきます、教育委員の渡辺でございます。よろしくお願いいたします。

本協議会に初めて参加する委員の方や代理出席の方もおられますが、お手元の資料をもって紹介に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。本年度から組織改定に伴いまして、幼稚園、認定こども園協会の代表者様、保育協会の代表者様、事務局指定委員として、こども未来部長様にも協議会委員をお務めいただきます。よろしくお願いいたします。また、平成25年度からは、東三河他都市の教育委員会や教育事務所の方々にもオブザーバーとしてお声がけさせていただいております。本日は、東三河教育事務所、新城市教育委員会、田原市教育委員会の方にご出席をいただいております。また、各分科会の委員をお引き受けいただいた皆様方にもお越しいただいております。

それでは、次第にしたがって協議会を進めてまいります。はじめに、「1 教育長あいさつ」豊橋市教育委員会 原田教育長より、ごあいさついただきます。よろしくお願いいたします。

(原田教育長)

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました豊橋市教育委員会の原田でございます。早いもので、令和8年度も既に2ヶ月が過ぎようとしています。各学校、各組織では、既にトップギアに入っているところかと思えます。

先ほど紹介がありましたが、今回からこの会の名称が新しくなっております。そのことも含めまして、また新たに委員になっていただいた方もたくさんお見えですので、最初に本協議会について簡単に説明をさせていただきます。この協議会が発足したのは平成21年度で、今年で18年目となります。会の目的は、公教育での学びの入口にあたる幼稚園・保育園・こども園等から出口に当たる高等学校等まで、豊橋市内の園や学校が教育活動の連携と系統化を図り、子どもたちの生きる力を育成するということとなります。これまでの経緯をお話しますと、当初、平成20年末に発足会を立ち上げてから、豊橋市内の小中学校と公立の高等学校、特別支援学校との連携から始まりました。その後、令和4年度から市内の私立の学校にも参加をしていただきました。さらに本年度からは、県立中学校と市内の幼稚園、保育園、認定こども園にも参加をしていただくこととなりました。したがって、名称も「豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」と、少し長くはなりますが、これだけ連携しているということがわかるような名前にしてあります。「豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」です。管轄の違いはありますが、本協議会を通じて、その壁を越えて小学校入学前の子もたちとの連携、中学校卒業後の高等学校との繋がりに重点を置いて、豊橋市として、幼年期から高等学校卒業期までの教育をより一層連携推進させていきたいと考えているところであります。また、具体的な方策を考えたり、それを進めたりする場として分科会を設けております。この分科会は、その時々課題に応じて設定をしておりますが、本年度からは幼年期教育分科会を新設しまして、英語、理科学、特別支援、幼年期教育という四つの分科会で、それぞれの教職員が連携をしながら、課題の解決に向けて活動を進めていきたいと考えております。

「教育は未来を創る営み」と考えております。今後も、本市の幼保こ小中高特の学校が縦横の連携を深めて、次代を担う子どもたちの確かな力を育てていくことができますよう、皆様方のお力添えをお願いいたします。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございました。続きまして、次第の2、本会の副会長を紹介します。副会長は、本会の規約第5条第3号により、私から指名させていただきます。豊丘高等学校長の牧野委員と中部中学校長の河合委員にお願いしたいと思っております。また、会長の職務代理者につきましては、本会の規約第5条第7号により、副会長から私が指名させていただくことになっておりますので、牧野委員にお願いいたします。本日、牧野委員がご欠席ですので、代表して、河合委員から一言ご挨拶をいただきます。

(河合委員)

改めまして、皆さんこんにちは。本会の目的が教育活動の連携と系統化を図ること、それによって子どもたちの生きる力を育成することということになっております。私は、昨年も本会に出させていただきます、東三河教育事務所に在籍しているときもオブザーバーとして出席させていただきました。その中で、豊橋の教育に携わる方々が集まって、協議会で議論するというのは、とてもよい会だと思っております。豊橋市の教育が、子どもが生まれてから成人するまでの期間として繋がったと思っております。学校現場で若い教員に指導したり、助言したりするときに、「大事なことは子ども理解である」という話をしています。子どもを理解する上で、入学前の子どもたちがどういった育ちや学びをしてきたか、卒園後・卒業後にどういった学び、どういった歩みをしていくのかを知ることからスタートするのかなと思ひ、この協議会の意義が大きいものと思っております。本年度皆様のご協力をいただきながら進められたらと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

(渡辺委員)

ありがとうございました。それでは、次第の3「昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について」を進めてまいります。協議の進め方ですが、はじめに協議会全体に関することについて事務局から説明し、その後、各分科会より「提案」と「協議」を行います。最後に「全体を通じた意見交換」の場もありますので、その際に意見を述べていただいても構いません。発言の際は、係の者がマイクを持っていますので、マイクを通して発言してくださいよう、よろしく申し上げます。なお(4)幼児期教育分科会につきましては、本年度から新設の分科会となりますので、今年度の活動の方向性についてご提案いただきたいと思います。それでは「協議会全体にかかわること」について、事務局から説明をお願いします。

(教育政策課長)

それでは全体に関わる内容としまして2点ご説明させていただきます。1点目は、今年度からの本協議会の名称および組織体制の見直しです。資料の5ページをお願いいたします。今年の2月に開催いたしました第38回豊橋市小中高特連携教育推進協議会でご承認をいただき、本年度より協議会の名称を「豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」に改称するとともに、幼年期教育分科会を新設しております。その趣旨および目的は、3に記載の通りでございます。続きまして6ページをご覧ください。体制の見直しに伴いまして、協議会委

員の増減を行っております。増員につきましては、幼稚園・保育園・認定こども園の代表者の2名と、豊橋市で幼稚園・保育園・こども園を所管しております、こども未来部長に協議会委員を委嘱しております。また、今年度より時習館高等学校附属中学校が開校したことに伴い、県立中学校の代表者に協議会委員を委嘱しております。一方、減員につきましては、これまでは豊橋市内の公立高等学校の代表者全員に出席していただいておりますが、7名から4名に精選させていただきました。具体的には、東三河高等学校長会の代表1名、普通科の代表1名、普通科・専門学科併置校および総合学科設置校から輪番で代表1名、専門学科設置校から輪番で代表1名としております。なお、これらの見直しに伴う改正後の協議会規約を7ページに記載しております。ご覧ください。

続きまして2点目ですが、今年度も豊橋市立小中学校の各教科等研究部が行う授業研究会を、幼保こども園や高等学校等にもご案内させていただきます。授業研究会の一覧は10ページに記載しております。今後、教育政策課より開催通知を送付させていただきますのでご承知おきください。この取り組みにより、幼保こ小中高特の繋がりが一層強くなっていくことを期待しております。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございます。せっかく参加していただいておりますので、皆さんにお言葉をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、各分科会の委員長から、昨年度の活動と今年度の方向性等についてお話をいただきます。各分科会、「提案」と「協議」合わせて10分弱しか時間が取れませんが、有意義な時間になればと思います。最初は「英語教育分科会」です。委員長の牟呂中学校長、稲田委員からご報告をお願いいたします。

(稲田委員)

本年度より牟呂中学校長に赴任しました稲田と申します。よろしく申し上げます。私自身は、小中高特の委員に就いておりました、委員長として戻ってきたということになります。

昨年度の分析について、昨年度は岩西小学校と南稜中学校と時習館高校の三校で授業参観をさせていただきました。私はその協議会には出ていませんが、授業について、高校の先生たちと協議する機会は、非常に大切だと感じています。今年から高校に入る豊橋の子たちの中には、八町小学校のイマージョン教育を受けてきた子が含まれており、時習館が目標とするような、英語界のチェンジメーカーが出てくるのではという期待を込めております。4の分科会以外の活動として、御津あおば高校の生徒に協力いただき、イングリッシュキャンプを行いました。また、フォルクスワーゲンに出かけるなど、異文化理解の機会として進めてまいりました。

本年度については、小学校の授業は八町小学校、中学校の授業は豊城中学校ということで、子どもたちの小中連携の姿をそこで見てもらえるのではと思っています。高校の授業参観は、今後決定する予定です。また、英語分科会の要望として、時習館附属中学校が新設されたので、時習館附属中学校の英語教育について触れる機会をぜひ設けていただけたらと思っています。また、豊橋のタブレット端末が今年度から変わります。英語授業におけるタブレット端末を使用した授業展開は、とても親和性、有効性があると思っています。新たなソフトを入れて進めている小中の英語教育と、高校もコンピュータを活用した授業を進められていると思うので、今年は授業の中でのタブレットの活用法についても、情報交換できたらと思

っております。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。時習館附属中学校の話題が出ましたので、副校長の天野先生お願いします。

(天野委員)

時習館附属中学校副校長の天野でございます。5年前までは本協議会の事務局にありまして、久しぶりに戻ってきた感覚です。よろしくお願いします。

時習館附属中学校の現状についてですが、2ヶ月経ちましたが、順調そのものです。すばらしい先生方を各市から派遣していただいております、また、子どもたちも選抜をくぐってきたのももちろん優秀ではありますが、一般の中学校と同じようにいろんなタイプの生徒がいます。それをみんなで認め合えるような環境を整えようと思って進めており、生徒たちもそのことを理解して、温かい雰囲気に進んでいると思っております。先ほどの稲田校長からのお願いについてですが、時習館附属中学校としては、ぜひ様々なところで協力させていただきたいという思いがありますので、英語に限らず、機会を提供したいと思っております。早速、東三河の小・中学校に案内を出して6月に授業公開を行います。そういった機会をきっかけに、様々な情報を発信して時習館附属中学校の教育を理解していただくように努力をしております。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。豊橋市の八町小学校には、イマージョン教育コースがございますので、英語については、他地区と比べ、飛び抜けているかと思えます。小中高の連携をしっかりとっていただき、英語のできる豊橋の子どもたちをしっかりと育てていただきたいと思えます。他、よろしいでしょうか。

それでは、理科学教育分科会の報告に移ります。時習館高等学校の牧野委員から報告をお願いいたします。

(牧野委員)

この4月に時習館高校に参りました牧野と申します。よろしくお願い申し上げます。それでは、レジュメの14ページをお願いいたします。昨年度の理科学教育分科会の活動報告をします。

目標としましては、小中高特の教育連携、小中高特の指導の系統化、そして教員の指導力向上を図ってまいりました。6回の分科会を開催しましたが、第1回と第6回は、計画の打ち合わせと振り返りを行いました。第2回から第5回の4回で、様々な取り組みをさせていただきました。第2回は時習館高校でのSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の成果発表ということで、本校生徒の研究発表を皆さんに見ていただくという機会を設定しました。第3回は、市教委主催の夏期研修や実技講座に理科学教育分科会が乗り入れる形で開催しました。参加人数を大幅に増やすことができました。実験講座について資料を読み上げますが、食塩水で作るレインボーカクテル、アンモニアを安全に使うこと、葉の断面の観察など、非常に工夫された取り組みをしてきております。そして、第4回目は、昨年度新規で開催したもので、時習館高校の生徒が小中学校の生徒にいろいろなことを教えるというものです。の

んほいパークで開催いたしました。時習館サイエンスフェスタということで、高校生が自分の言葉で小学生にもわかる説明をするという内容です。これは、本当に理科の内容を理解していないと伝えられないため、本校の生徒にとっても大変勉強になる機会だったと思います。これこそが本当の小中高の連携だと思いました。第5回目は、中学校の理科の研究授業を拝見させていただきました。

令和8年度につきましては、昨年度開催した第4回の分科会も大変好評でしたので、踏襲して進めていこうと思っております。本年度の課題は、14ページの下段に記載してありますが、いかに宣伝するかということです。さらに、特別支援や幼稚園、保育園、大学まで連携に入れた取り組みをしていきたいと思っております。先ほど申し上げたように、時習館附属中学校が新設されましたので、時習館附属中学校の参観も活動に取り入れたいと思います。それを踏まえたものが、15ページの令和8年度の計画です。第2回を7月16日に設定しております。本校のSSH成果発表会に参加していただきます。このSSH成果発表会には、時習館附属中学校の生徒も参加させたいと考えております。第3回目は、理科実験講座として、市教委主催の夏季研修講座と合同で開催いたします。多くの先生方に参加していただき、連携や理科教育の力量アップに繋がるような内容にしていきたいと思っております。第4回は、のんほいパークを会場として、時習館サイエンスフェスタを開催します。小中学生の参加者に対して、高校生がどのようにアプローチしていくか、理科の面白さをどのように伝えていくかという取り組みを考えております。第5回は、小学校授業研究会に参加し、研究協議会を開こうと思っております。また、自由参加ということで、異校種の授業交流会も考えております。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(西島委員)

先ほどの英語教育分科会の課題として、参加者増員が挙げられていたので、参加者を増やす努力をされていくのかなと思いましたが、この理科学教育分科会に関しては、合同開催で行ったことで参加者が10倍というお話でした。数だけで言うとすばらしいと思います。理科実験講習会と実技講座と合わせたことで、運営や公開の面で、特に問題なくできたのでしょうか。

(牧野委員)

参加者が10倍に増えたということで、システム上問題なく進められたと捉えています。

(西島委員)

こういったコラボレーションするなどして、スムーズに参加者を増やすということも非常によく考えられていると思います。コラボレーション等で、効率よくできるということは非常に参考になりました。ありがとうございます。

(渡辺委員)

先ほど、大学との連携というお話があったと思いますが、実際、豊橋技科大や愛知大との

連携はうまく行われているでしょうか。

(牧野委員)

すでに技科大とは SSH で連携をしております。先ほど西島委員が言われたように、今あるものをそのまま使うほうがうまくいくこともあると思っております。愛知大学については、学長にご挨拶に行きまして、図書館の利活用も含めた連携について模索しております。その過程で、理科学教育でも図書館の利用ができるとよいと思っております。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ぜひ広げていっていただきたいと思います。続きまして、「特別支援教育分科会」に移ります。委員長代理のくすのき特別支援学校教頭、渡辺先生からご報告をお願いします。

(渡辺教頭)

校長の代理で報告をさせていただきます、くすのき特別支援学校の教頭の渡辺と申します。よろしくをお願いします。

特別支援教育分科会では、一昨年度まで個別の教育支援計画について検討してまいりました。昨年度、「中学・高校卒業後を見据えた進路について」という新しいテーマを設定して取り組んでおります。最近では、特別支援教育の対象となる児童生徒が増えていることもあり、初めて特別支援教育を担当される先生方もいるため、目の前の子どもたちの指導だけではなく、進路指導になかなか苦労している、進路指導の進め方がよくわからないというところが課題として挙げられています。そういった先生方が、特別な支援を要する子どもたちの進路について、保護者に説明できるようなハンドブックがあるとよいということで、このガイドブックの作成に取り組みました。昨年度から作成し、1年目となっております。まずは、中学・高校卒業後の進路の見える化という点で、障害のある子どもたちが中学校・高校を卒業した段階で、どのような進路に進んでいくのかの見える化し、小学校、中学校段階からどのようなサポートができるのかについて、検討できるようなガイドブックの作成に取り組みました。分科会は全4回行いましたが、1回目、2回目では、幼稚園グループ、小中学校グループ、高校特別支援学校グループにわかれて検討をしました。第3回は、授業研究会の参加ということで、10月31日にくすのき特別支援学校にて、東海地区の知的障害特別支援学校の研究大会に参加していただきました。静岡、岐阜、三重、愛知の知的障害特別支援学校の教職員が本校に集まって、公開授業を行いました。300名以上が集まりました。せっかくの機会ということで、特別支援教育分科会の委員の方にも参加をしていただいて、特別支援学校の現状を見ていただきました。それが第3回の取り組みです。

本年度の活動予定は、今進めているガイドブックを完成させることを目標にしています。活用されるようなガイドブックにできるよう、特別支援教育に携わる様々な方に見ていただくことを考えています。また、分科会では、活用できるようなものになっているかを検討することと、委員自身も実際に使用してみて、改善点等について協議を進めて、完成させたいと考えています。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございました。このガイドブックは、結構な厚みになるなど、完成のイメージ

はありますか。また、くすのき特別支援学校の子どもたちの進路は、どのような状況になっていますか。

(渡辺教頭)

ガイドブックの完成形については、現在作成中ということで、把握できておりません。ただ、厚いものと逆に提供いただけないと思いますので、その点も加味して作成を進めていければと考えています。

また、進路についてですが、本校には高等部に普通科と産業科の二つの学科があります。産業科は、本校の中学部からの進学ではなく、主に地域の特別支援学級の子どもたちが受験をして入ってきています。彼らは、障害者雇用枠での一般就労を目指しております。普通科の子たちは、ほとんどが福祉の力を借りて生活支援のサービスを受けながら生活しております。

(中島委員)

教育委員の中島と申します。先日は、くすのき特別支援学校の運動会を参観させていただき、ありがとうございました。くすのき特別支援学校では、子どもたち一人一人を尊重して関わられている先生方ばかりで、本当に学びになりました。ありがとうございます。ガイドブックについて、幼稚園という言葉がありましたが、幼稚園・保育園・こども園も視野に入れられてのガイドブックと捉えてよろしいですか。大変期待しております。よろしくお願ひします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。

それでは、幼年期教育分科会に移ります。委員長の二川小学校長、河合委員からご報告をお願いします。

(河合委員)

幼年期教育分科会委員長の河合です。本分科会は、これまでは幼年期教育研究会として行ってきました。幼・保・こども園の年長さんから小1にかけての連携についての検討を中心に行ってきました。小学校低学年での不登校など、なかなかスムーズに切り替えができない子どもたちが本当に多くなってきております。子どもたちがスムーズに小学校に移行できるようにということを考えて進めてまいりました。昨年度までに、「幼保小学校の学びの繋がりシート」ということで、幼稚園・保育園・こども園で育ってほしい10の姿を示し、それが小学校の学びにどのように繋がっているかを市として作成し、市のホームページへ掲載しております。今年度は、カリキュラムの作成を進めていくことを考えておりますが、どの学校でも活用ができるような、よりよいものを目ざして作成をしていきたいと思っております。

活動としては、夏休みに幼稚園・保育園・こども園と小学校の低学年の先生方を中心とした学習会を開催いたします。今年度も2回を計画しております。その中で、学習会として講師の先生をお呼びして連携会議を開いたり、どのように検証をしているかについて少人数で話し合いをしたりしていきます。課題はありますが、どのように幼稚園・保育園・こども園から小学校へ繋がっていくかについて、地域ごとに具体的なカリキュラムを作成し、来年度からスタートできるように、今年度取り組んでいきたいと考えております。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(高倉委員)

豊橋中央高等学校長の高倉です。本校が幼稚園も運営しているので、そちらの関心ですが、豊橋版架け橋期カリキュラムシートについて質問をします。これは、子どもたちが小学校に上がるときに、このぐらいのことはできてほしいということが、幼稚園・保育園・こども園と共有するようなイメージなのか、具体的に知りたいと思います。

(河合委員)

カリキュラムですが、幼稚園・保育園・こども園でこういう活動している、このような子を育てているという部分と、小学校の学習との繋がりを示していくことを考えています。これができるということではなく、学びは繋がっているということを中心にカリキュラムの作成をしていきたいと考えています。特に、小学校の生活科の学習について、幼・保・こども園で実践していることと、それをもとにして小学校の学習が進んでいるということを意識したものになればと思っております。

(高倉委員)

ありがとうございます。幼稚園側からの意見としては、4月に小学校1年生として入学してくるときに、どういうことができているとよいかを項目等を出していただけると、それを意識して教育を進められると思いました。互いに要望を出し合い、よい形になることを期待しています。

(渡辺会長)

ありがとうございます。他にご質問・ご意見等はございませんか。

(中島委員)

教育委員の中島です。本当に願いのことだと思っております。本日は、金仙先生、大橋先生、こども未来部長も参加されており、本当に楽しみにしています。豊かな豊橋で、豊かな子どもが育っていくという、生まれたときから乳幼児、成人になるまでの教育が繋がっていくことが本当にすばらしいですし、これからが本当に楽しみと思っております。幼・保・こども園が仲間に入ったことが、幼・保・こども園の結束と向上にも繋がっていくと思えます。また、小学校への負担のない接続の大切さについて、平成30年のあたりから幼児期に育てほしい10の姿が国から示されています。やらせるのではなく、子どもたちを大切に見つめていると、自然に育っていく力があるということをうまく小学校に繋げていき、各校区でも近隣の小学校と繋がりながら行われているものが、この架け橋期カリキュラムシートとして各校区で広がっていくとよいのではと思います。地域の子どもたちが地域で育っていくことにもなりますし、幼児期の生活や遊びの楽しさが、今度は学びの楽しさに向かっていくという子どもの育成に大いに期待しております。このカリキュラムシートは、できて終わりではなく、これがどう生かされていくのかというたたき台として、ここから繋がっていくことを期待しております。

(渡辺会長)

ありがとうございました。せっかくですので、幼稚園、認定こども園協会代表の金仙先生、よろしくお願いします。

(金仙委員)

豊橋市幼稚園・認定こども園協会の金仙と申します。仲間に加えていただけたことを、本当に嬉しく思っております。始まる前に時習館附属中学校の天野副校長とお話をさせていただく中で、今は何でも教えるというところから一步身を引いて、子どもたちの力、自己管理能力の育成が大事なのではということをおっしゃられていました。その根本となる部分として、私達も主体性を大事にした保育教育をととても大事にしております。大切にしている部分は、同じであるということを感じました。去年まで幼年期教育研究会でも一緒に考えさせていただきましたが、これからは皆様と共に考えさせていただけると嬉しいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。保育協会代表の大橋先生、いかがでしょうか。

(大橋委員)

豊橋保育協会会長の大橋と申します。やはり幼児期のことは本当にずっと繋がっていくと思っています。特に、生活の部分が一番大きいと思っています。子どもたちは、生活の中でいろいろ発見をしながら成長しています。簡単に言えば、子どもたちにとっては、階段を上ることさえものすごく勉強になっています。そういう点からも、カリキュラムがあることで幼年期と小学校が上手に繋がっていき、小学校1年生での不登校の問題についても、そこでつまづいてしまうことがないようにしていけたらと思います。ただ、年齢上がっていくと不登校になってしまう子が増えていくということは理解しておりますので、不登校への対応については、幼年期からの繋がりも含めて考えていく、そのような分科会にしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。続けて、こども未来部の小清水部長、よろしくお願いいたします。

(小清水委員)

こども未来部長の小清水と申します。今年からこの協議会に入れていただけるというお話を伺ったときに、事務局から「小学校に上がってすぐにトラブルを抱える子ども多い」ということを教えていただきました。保育を取り巻く時代がとても難しく、これまでいろんな課題がある中で、金仙先生、大橋先生が一生懸命やってこられたこともたくさんあったと思います。こども未来部だけではなかなか考えが進まない部分もある中で、教育委員会との連携が非常に大事になると考えていたところでしたので、このように連携させていただくのは、ありがたいことと思っております。

また、私は、こども未来部の前に多文化共生・国際課長をしていたときも、外国人を取り巻く未就学児の問題は大きな問題だったと捉えています。事業としては、フリースクールといって、NPO 法人さんを中心に小学校に上がるまでにどのようなことをすればよいかを進め

ました。豊橋の人口はどんどん減っていますが、外国人の人口は増えているということで、労働者の子どもたちが小学校に入ってから過ごしにくいという現実がありました。そのプレスクール事業の大切さをひしひしと感じておりました。豊橋に暮らす子どもたちが、日本の子どもたちと国籍は違っても一緒に未来を築いていけるような連携ができるとよいと常々思っております。そういった視点からも、連携させていただきたいと思っております。

こども未来部は、保育課、子育て支援課、こども未来館、子ども若者支援センターという四つの部署で成り立っており、それぞれ大きな課題を抱えております。教育委員会とは直接的な連携がないように見えますが、豊橋の行政をしていく上で、どの課も非常に大事な役割を担っています。そういう点からも、様々な連携をさせていただき、勉強もさせていただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございました。新しい分科会でありますので、今後頑張ってくださいと思います。新しい課題として挙げられている不登校についてですが、不登校は入口のところだけではなく、教育界全体の問題だと思います。不登校対策として連携をとることによって、幼稚園・こども園から20歳になるまでの間に、一人でも減らしていくことができればすばらしいと思います。ぜひよろしく願いいたします。

それでは、全体を通しての意見交換になります。冒頭で一言ずつお願いしますと言いましたので、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。豊橋南高校の鈴木先生、よろしく願いいたします。

(鈴木委員)

豊橋南高校の鈴木と申します。本校職員は、昨年度まで設置されていた言語能力の分科会に関わらせていただいております。皆様のおかげで、無事にひと区切りをつけることができました。ただ、言語能力、いわゆる言葉を使うということは、どの場においても、どの年代においても、それぞれ発達段階に応じて大切な事柄になると思っております。言語能力分科会としては一旦終了ということになりましたが、言葉というものを今後も大事にさせていただけたらと思っております。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、豊橋工科高校の脇田先生お願いします。

(脇田委員)

豊橋工科高校の脇田と申します。本校には、全日制以外に定時制課程があります。さらには、去年から開校しました夜間中学もあります。夜間中学は、年齢が16歳以上の方が学びにきており、現在は最高年齢62歳の方が学んでいるという状況でやっております。先ほど不登校の問題が話題になりましたが、本校定時制には、中学校で学校に行けなかった生徒たちが何人かおります。中学校はいけなかった生徒が、夜間中学に来て前向きに皆勤で過ごしている様子も見られますし、中には新聞に取り上げられたという生徒もおります。今後も、いろいろなどころでお力添えをいただくことがあるかもしれませんので、今後ともよろしく願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、豊橋豊学校の神本先生お願いします。

(神本委員)

豊橋豊学校の神本と申します。今回から幼稚園・保育園・子ども園が加わったことは、大変素晴らしいと思っております。早期からの教育の連携というのは障害のある子たちでも全く変わりません。本校は乳幼児から教育相談を行っておりますが、やはり医療、福祉、そして教育に繋げるということが非常に大事であると感じております。もし、幼稚園・保育園等でちょっと聞こえが悪いかなということがあれば、相談していただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、豊橋特別支援学校の鈴木先生お願いします。

(鈴木委員)

この4月に豊橋特別支援学校へ着任いたしました鈴木玲子と申します。前任校が豊川特別支援学校で、知的障害を伴う子どもたちが通う学校でしたが、この特別支援教育分科会のガイドブックはすごく活用できる、よいものを作られたと読ませていただきました。今現在、どこの支援学校でも、外国にルーツをもつ子どもが増えていて、ルビや他言語化で作成していけるとよいということと、進路や就労選択支援の制度がどんどん変わっているので、アップデートできるとよいと思いました。保護者から何うのが、就職・一般就労と、福祉的就労することがゴールではなくて、合わなくて辞めて次の就労先が変わったことや、友達や自分の子どもと同じぐらいの障害の程度の方がどこに行ったのかななどの情報がほしいという声も聞きました。学校の先生方がいろいろな情報をもって、保護者へのアドバイスもできるとよいと思っています。よろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、桜丘中学校の守屋先生お願いします。

(守屋委員)

今年度、桜丘中学校長に就任しました守屋と申します。本校は私学なので、井の中の蛙になりがちで、このような会に参加させていただき、皆様のご意見をお聞きできるのは本当に勉強になります。特に、授業研究会には本校の教員も参加させていただいております。なかなか他の学校の授業を見る機会がないので、とても参考になっております。特に中学校では、公立学校の場合は、小学校のときの内容をお聞きした状態で学習したことを繋げていくことができますが、本校はなかなか連携がうまくいかないため、中学校に来てからいろいろつまづいてしまこともあります。その際には、小学校の先生方と交流をさせていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、桜丘高校の田嶋先生お願いします。

(田嶋委員)

この4月から桜丘高校の校長に就任しました田嶋といたします。私学は私学で、学び合う機会が非常に多くあります。愛知県の様々な学校と交流し、それぞれの課題に取り組んだり、授業力向上も含めて研究したりしております。先日、青山校長からご連絡いただいて、このような会があるということを知りました。皆様のご意見聞かせていただく中で、一人の子どもが成長する段階で様々なステージで、それぞれ連携をしていく場所があるということは、すばらしいことだと感じております。豊橋市には私立の小学校はありません。私立の中学校も愛知県の中で10数校、高等学校では55校程度ありますが、本会で様々な子どもの成長に合わせた課題を知ることができたり、私学桜丘高校として、今後どういう取り組みができるのかを学んだりすることができればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、藤ノ花高校の青山先生お願いします。

(青山委員)

今年度から藤ノ花女子高等学校の校長になりました青山と申します。私は前年度までは公立高校の校長でしたので、公立から私立に移ってきて今勉強しながら頑張っております。東三河で唯一の女子校ということもあり、感覚が違う部分もあるかもしれません。本校は、必要以上に人の目を気にせず高校生活を送ることができるというメリットもあり、中学校で不登校の状況から、高校で切り替えられたという事例もいくつもあります。中学から高校への連携という点で、一つのよい事例報告ができればと思っております。この機会に他のお話も伺わせていただければと思います。よろしく申し上げます。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、中央高校の高倉先生お願いします。

(高倉委員)

豊橋中央高等学校校長の高倉です。中学校に関することになりますが、時習館中学校が新設され、豊橋市内には今、市立の中学校と県立の中学校と私立の中学校ができた状態になります。こういう状況ですので、例えば、生徒募集について方針を合わせるのはいかがでしょうかと考えています。今までは桜丘中学校だけでしたので、独自に進めていたと思いますが、今現在は、それぞれが小学校に対して中学校の募集をしていると思います。今回、時習館附属中学校が新設したことで、高等学校の生徒募集に近い状態になるとと思いますが、小学生に対して中学校をアピールするプラットフォームのような共通の場が必要になるのではと予想しています。

別件にはなりますが、中学校の学級数のことで、生徒数の増減によって、学級数が変わることがあると聞いています。小学校から時習館附属中学校に何人進学するのか、桜丘中学に何人進学するのかによって、学級数と教員の数が変わってくると思います。時習館附属中学校が新設されたことで、教育委員会の人事の面で、大変になっているのではと思います。本会があるので、小学校から中学校への連携についても検討するとよいのではと思っております。全市的なこととして、今考えていることを申し上げさせていただきました。

(渡辺会長)

ありがとうございました。その点について、教育委員会としていかがでしょうか。

(夏目学校教育課長)

学校教育課長の夏目と申します。学級数については、何人の児童が受験し、何人が合格して進学するかによって変わってきますし、おっしゃるとおり、学級数が変われば教員の数も変わってきます。中学校入試の結果が1、2月あたりになるので、公立学校については一定の影響があります。

(高倉委員)

今後も相談しながら、連携できるところがあれば協力できたらと思います。よろしくお願いいたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、向山小学校の吉田先生お願いします。

(吉田委員)

向山小学校の吉田でございます。私は、小学校と園の関係について一言お話をさせていただきます。私見も入っておりますが、各園の教育方針は、どの園もすばらしく、1年生で入学したときに、本当に個性がわかれます。小学校では、きまりを守ることや落ち着いて授業を受けることの指導も行いますが、それが難しいお子さんもいらっしゃいます。今後は情報交換する機会があるとありがたいと感じています。園の様子をもっとよくわかるとありがたいと思いますが、実際に時間的な拘束がありまして、ほぼ不可能です。1年生の5月の時期に情報交換会を行いますが、今現在、園の先生方もそこでしか交流がありません。情報交換ができると、もっと連携が深まるのではないかと思います。もう一点は、個性と発達障害をどこまで認めるかということも、今は難しい状況にあります。連携が言葉だけにならないように、情報交換ができる機会を設けていただきたいと思います。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、石川教育部長お願いします。

(石川委員)

教育部長の石川でございます。今日、不登校という言葉が多々ありましたが、教育委員会でも不登校が大きな課題であると認識をしております。令和元年度に小学生・中学生合わせて、不登校の人数が620人でした。その5年後の令和6年度には1,390人と、非常に増えております。今後これが続いていくと、非常に心配な状態になると思っております。いろいろな調査で数字が出てきていますが、引きこもり状態になってしまう方々でも、不登校経験者の割合は高いと言われております。さらには、自殺をされた方の中にも、不登校の経験者が一定あると言われております。豊橋でも不登校の人数が増えてきていると申し上げましたが、低学年の不登校数の割合が、非常に大きくなっております。そういった中で、今回、幼稚園・保育園・子ども園との連携ができる、連携をしてこの協議会を進めていくというのは、とても大きな意義があると思っております。これからもぜひ力を貸していただいて、この不登校

対策の一つとしてもこの協議会を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、教育委員の内浦委員お願いします。

(内浦委員)

教育委員の内浦です。私は保護者枠で席をいただいておりますので、保護者の視点からお話をさせていただきます。一般の保護者の皆さんにも、豊橋市を挙げて、幼保こ小中高特の連携の会議をしたり、みんなで考えて活動したりする研究を推進していることを、もっともって知ってほしいという気持ちがあります。私事にはなりますが、下の子が今年から小学1年生になりました。去年、幼稚園から小学校に進学するときに、いろいろ悩むこともありました。様々なところに相談をしたり、同じ内容の話を違うところにいくつか連絡したりしたこともあります。そういう保護者は、一定数いると思います。不安を抱えているとか、心配することがある人たちからすると、豊橋市が組織を超えて連携して、一丸となって幼保こ小中高特で連携をしていることは、本当に素晴らしいことと思います。そして、そのことを関わってくださっている方たちが発信することによって、豊橋で子育てしてよかった、豊橋で教育を受けさせられてよかったと、より安心する保護者が増えるのではと思います。ぜひ今年1年さらに発信していただく機会が増えたらと思いました。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、最後に教育長お願いします。

(原田教育長)

皆様、様々なご意見をありがとうございました。今年から幼保こ小中高特の連携となり、いろいろ話をいただけて、ありがたいなと思いました。以前、ある原稿にこんなことを書いたことがあります。「豊橋という教育の布を作っていきたい」ということです。布を作るには、縦糸と横糸が必要で、その両方が丈夫な布を作るために、綺麗な布を作るために大事であると思います。その縦糸が幼保こ小中高特の縦の発達段階だと思っています。横糸は、例えば、幼稚園、保育園、こども園とか公立学校、県立学校、私立学校、豊橋市立学校などの横との繋がり。そういった縦と横がうまく繋がっていくと、豊橋の教育という布が綺麗にできあがるのではないかとイメージをしております。そういう意味で、この会は縦糸横糸全てのところを見ていける非常に大事な場だと思っております。今日、全ての方に声を上げていただいて、互いを知るということが実は一番大事なのではないかとも感じています。それぞれの組織で自分たちだけでやっている、知らないことや気づかないことがあるので、互いを知るということも含め、本会のとても大きな意味と思っております。ぜひ今後、そのような素晴らしい会になっていったらと思いながら聞かせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは次第の「4、東三河小中高特連携教育推進協議会について」、東三河教育事務所よりご説明をお願いします。

(東三河指導課長)

改めまして、皆さんこんにちは。本協議会にオブザーバーとして参加させていただきありがとうございます。私は、東三河小中高特連携教育推進協議会で事務局を務めております東三河教育事務所指導課長の小野と申します。

それでは、昨年2月に説明した部分と少し重複する部分もありますが、新たな委員の方もいらっしゃいますので、私どもの事業につきまして昨年度の取り組みの様子を簡単にご報告させていただきます。19ページをご覧ください。具体事業①「ほの国未来セッション」では、Web開催により、東三河の公立高校を卒業し、世界で活躍している先輩のインタビュー動画や、学校学科紹介、中学生から寄せられた質問に対する高校生の回答を載せた質問ボックス等を掲載し、11月から3月まで公開をいたしました。また、ウェブ上でアンケートを実施しており、生徒からの声を大切にしていきます。今後もキャリア教育や進路学習の授業で活用することなど、生徒が将来に夢や目標を抱くきっかけにしていけたらと考えております。

(指導課主査)

東三河教育事務所主査の長谷佐織です。よろしくお願ひします。次に20ページをご覧ください。具体事業②「異校種授業交流会」は、異なる校種の授業参観や協議を通して、同じ東三河地区の子どもたちを育てていくという意識を共有することや、自校での子どもの見方や接し方、授業作りに生かすことを目的に開催しています。昨年度は、田原市立東部中学校と豊川工科高校で授業公開をし、東三河管内の小中学校、高校、特別支援学校の教員が参加しました。他校種の授業を初めて見る参観者も多く、授業後の協議会では、様々な視点で現状や思いを交流することができました。それぞれが授業を見つめ直すとてもよい機会になったと感じています。明日からよりよい授業作りに生かしたいといった感想が聞かれ、大変有意義な取り組みとなりました。具体事業③「専門学科を有する県立高校と特別支援学校における初任者研修」では、キャリア教育については、渥美農業高校、田口高校山嶺教室及び特別支援教育については、豊橋特別支援学校にて研修を行いました。講演や校内計画、授業参観、グループ協議等を通して各学校での取り組みや学習の様子、児童生徒への支援の仕方、また、キャリア教育のあり方などについて多くを学び、視野を広げることができました。

なお、今年度の計画につきましては、次のページに記載してありますので、ご覧ください。最後に、21ページをご覧ください。こちらは本年度の主な事業計画で、昨年度までの三つの柱に加えまして、上から2段目の小中高という人事交流活動を新たに実施したいと考えています。各郡市等において、市町村立中学校と県立高等学校から講師の教員を選出し、互いの学校で授業を行うなど交流活動を通して、人材育成や小中高特のさらなる連携協働を図ることを狙いとしております。以上、報告とさせていただきます。なおご質問ご意見等がございましたら、後日、東三河教育事務所まで直接お問い合わせいただきますよう、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(渡辺会長)

ありがとうございます。それでは、続いて次第の5「連絡事項」に移ります。事務局、お願ひします。

(教育政策課長)

■連絡事項 教育政策課長説明

(渡辺会長)

ただ今の連絡事項に、何かご質問はございますか。

それでは、以上をもちまして、「第39回豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。